

フィンランドの気の毒な歴史と今

今年(2008年)2月、ヘルシンキのほぼ真西約160キロに位置する古都トゥルクという町で第27回フィンランド冬期道路会議(国際会議)が開催されました。本会議はフィンランド道路協会が主催する会議で、行政機関の意思疎通を目的に、1930年代から開催されてきたそうですが、当初から研究発表会や除雪機械などの展示・デモンストレーションも合わせて開催されているそうです。言ってみれば、我が国における「ふゆトピア(本州では「ゆきみらい」)のフィンランドでの国際版と言ったところでしょうか。今回のテーマは、気候変動の冬期道路管理への影響に焦点を当てたもので、温暖化の影響として、凍結融解の頻度が多くなり、融雪水による道路の損傷や洪水が問題となってきているとのこと。特に、今年は開催地トゥルクやヘルシンキにおいて史上初めて雪の全くない2月となったとのこと。

話を本題に戻します。

フィンランドについては、在ヘルシンキ日本大使館の勤務経験者など、詳しい方が大勢おられ、私から紹介するのもおこがましいのですが、私を感じた気の毒な歴史をごく簡単に紹介します。

フィンランドの略史は以下のとおりです。

- 12世紀 : スウェーデンが十字軍の名のもとにフィンランドに攻め込み支配下におく。
- 1323年 : スウェーデンとロシア(ノブゴロド共和国)間の国境確定に際し、スウェーデンの一部となる。
- 1700年代 : ロシア軍がフィンランドの土地を侵略。フィンランド人の必死の抵抗もむなしく、スウェーデンがロシア軍に大敗し、兵を引き揚げる。
- 1808年 : ナポレオンにけしかけられたロシア軍が再びフィンランドに出兵。スウェーデンはフィンランドに援兵を出さなかったため、ロシアはフィンランドを占領。
- 1809年 : ロシア皇帝を君主とする自治公国としてロシアに併合される。
- 1917年 : フィンランドは帝政ロシアが崩壊するとともに念願の独立を果たす。
- 1939年 : ソ連軍、レニングラード(現在のサンクトペテルブルグ)防衛を理由にフィンランドに侵攻。
- 1941年 : ドイツの対ソ戦争に巻き込まれ、ソ連と戦争。
- 1944年 : 対ソ休戦協定を結ぶが、報復のためドイツ軍がフィンランドのラップランド地方を徹底的に破壊。一方、その後ソ連からは国民所得の1割に上る巨額な賠償金を課せられる。
- 戦後 : 賠償金を支払い期限の半分強で支払い切る。
- 1952年 : ヘルシンキ・オリンピック。
- 1955年 : 国連加盟。
- 現在 : 一人当たりGDPで日本を抜く。世界トップクラスの国際競争力と教育水準を達成。

ということで、フィンランドは長くスウェーデンとロシアの支配下にあり、独立したのは今から100年も満たない時期であり、その後もドイツとソ連から苛烈な扱いを受けた全く気の毒な国であると私は感じます。

旧ソ連崩壊後も、ロシアと西側諸国間の流通の橋渡し役を自国に有利に活かしつつ、人口約530万人足らずの国でありながら、世界トップクラスの先進国として生き延びていることに驚嘆するとともに、列強の狭間の中でたたかき生き延びて来たフィンランド人の粘り強さや知性に見習うことが多いような気がします。

(技術開発調整監 浅野 基樹)

* * * *

表紙左上記号 ISSN 1881-0497の説明

国際的なコード番号であるISSN(International Standard Serial Number: 国際標準逐次刊行物番号)は、ISSNネットワークが管理する、逐次刊行物を識別するための固有の番号です。この番号は国立国会図書館ISSN日本センターから付与されたものです。